

# 和音

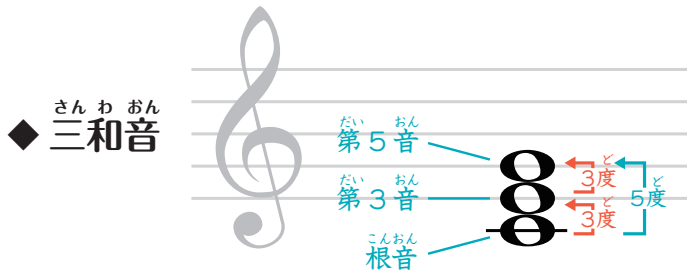
## 和音とは

高さのちがう音が2つ以上同時にいじられ、重なってひびく音を和音といい、楽譜では次のように書かれます。



## 三和音と四和音

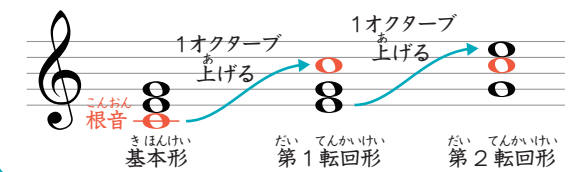
和音には様々な形がありますが、特によく使われるのは「三和音」と「四和音」です。  
和音の基本となる音(根音)の上に3度ずつ高い音を2つ重ねたものを「三和音(五の和音)」といいます。



### 和音の転回形

和音の構成音を変えずに、一番下の音を1オクターブ上げたものをその和音の転回形といいます。

#### 「ド・ミ・ソ」で出来た三和音の転回形



調には、それぞれその音階固有の三和音があります。

#### 八長調固有の三和音

【根音】	音階の第1音(主音)	第2音	第3音	第4音	第5音	第6音	第7音	(第1音)
【和音の記号】	I	II	III	IV	V	VI	VII	(I)
【和音の名前】	主和音 (トニック)			下属和音 (サブドミナント)	属和音 (ドミナント)			

和音の記号は、ローマ数字により、その調の第何音を根音としたものかを表しています。例えばIは、第1音を根音とした三和音ですから、八長調では「ド・ミ・ソ」、ト長調では「ソ・シ・レ」の和音を表します。  
各調のI、IV、Vをその調の「主要三和音」といい、特に重要な役割を持つ和音です。

三和音の上に、さらに3度高い音を重ねた和音を「四和音(七の和音)」といい、ローマ数字の後に小さく7をつけた記号で表されます。

四和音のうち、第5音を根音としたものを「属七の和音」といい、これも重要な和音です。

#### 八長調固有の四和音

【和音の記号】	I7	II7	III7	IV7	V7	VI7	VII7	(I)7
					属七の和音 (ドミナントセブンス)			